

平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立古里中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の参加状況

第2学年	国語	1 2 3 人	社会	1 2 3 人	数学	1 2 3 人
	理科	1 2 3 人	英語	1 2 3 人		

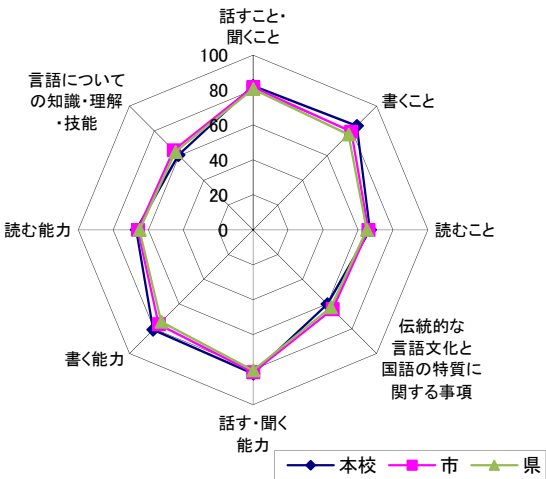
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立古里中学校第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	82.3	81.6	80.5
	書くこと	84.0	79.4	77.2
	読むこと	66.8	65.9	65.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	60.1	64.2	62.8
観点	話す・聞く能力	82.3	81.6	80.5
	書く能力	80.9	76.4	74.3
	読む能力	66.8	65.9	65.0
	言語についての知識・理解・技能	60.5	64.4	63.0



★指導の工夫と改善

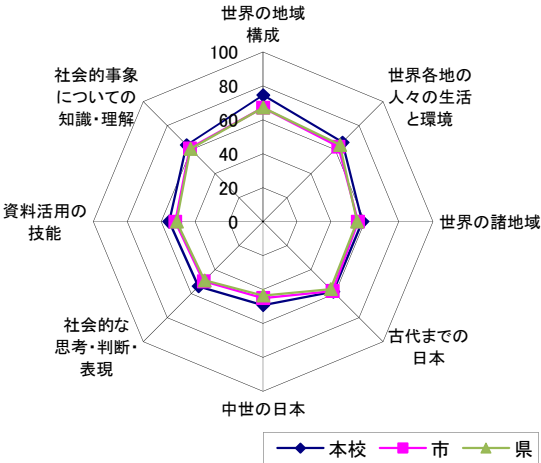
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○本校の正答率は、市平均より0.7%、県平均より1.8%高い。	1年時の学力調査では聞き取りの問題に課題が見られたが、今回はそれを大きく修正できたのではないだろうか。今後も聞き取りの問題等を授業の中に入れ、指導していきたい。
書くこと	○本校の正答率は、市平均より4.6%、県平均より6.8%高い。特に、作文の問題では、本校の正答率は84.0%で、県平均の77.2%より約7%高い結果であった。	作文に関しては、県の平均を大きく上回ることができた。授業の中でも意見文の種類や書き方を指導しているので、今後も継続して指導していきたい。
読むこと	○本校の正答率は、市平均より0.9%、県平均より1.8%高い。	本校は読書が好きな生徒が多く、日ごろから文学作品に触れる機会が多い。文学作品に触れる際、筆者や登場人物の心情を考えさせながら読ませていきたい。また、説明文の読み取りは、事実と考察の部分を発揮させる部分があるので、今後も意識させていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●本校の正答率は、市平均より4.1%、県平均より2.7%低い。特に、漢字の読みの正答率は本校74.2%県平均77.5%、文法・語句に関する知識の正答率は本校61.6%、県64.8%と、約3%低い。	漢字は読みも書きも平均を下回ってしまった。小テストを行うなどして、定着させていきたい。また、文法の部分については、宇都宮市全体でもポイントが低い部分であるといわれている。もう一度復習をさせ、単元テスト等で学力を向上させていきたい。

宇都宮市立古里中学校第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	74.5	67.1	67.1
	世界各地の人々の生活と環境	66.1	62.6	63.9
	世界の諸地域	58.5	55.9	55.3
	古代までの日本	58.4	57.8	56.2
	中世の日本	49.3	45.1	43.5
観点	社会的な思考・判断・表現	53.9	49.7	48.9
	資料活用 の技能	55.4	51.8	51.0
	社会的 事象についての知識・理解	63.8	61.1	60.6



★指導の工夫と改善

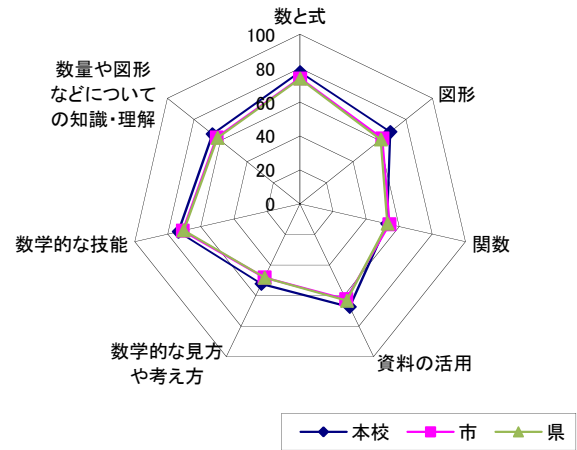
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○本校の正答率は、市および県平均より7.4%高い。	最も正答率が高かった分野である。この結果を保つことができるかが重要になってくる。高い正答率の中でも、最も正答率が低かったのは世界地図を活用する問題で、地図をもとに思考するものであった。2年生の「日本の地域構成」の単元においても一度地図をもとに考える問題を取り入れていきたい。
世界各地の人々の生活と環境	○本校の正答率は、市平均より3.5%、県平均より2.2%高い。	世界の住居に関する知識を問う問題が県・市の平均を下回った。雨温図から判断する問題は県平均を上回っているものの正答率が低い。雨温図は、気候区分ごとにパターン化してもう一度まとめる必要がある。
世界の諸地域	○本校の正答率は、市平均より2.6%、県平均より3.2%高い。特に、南アメリカ州についての本校の正答率は56.6%で、県平均52.7%より約4%高い。	アジア州の範囲で目立つのは、文章記述問題である。県平均を7%上回った。この結果から、授業やテストなどを通して少しずつ文章で書く力が付いてきたように思えた。また、南アメリカ州の学習では、図や資料から読み取る技能が求められる。図や資料を積極的に扱う授業を行うとともに、ワークを使って練習させていきたい。
古代までの日本	○本校の正答率は、市平均より0.6%、県平均より2.2%高い。特に、古墳時代までの本校の正答率は、69.7%で、県平均66.0%より4.7%高い。	知識として定着している生徒は多いので、さらにその知識を基に考える力をつけていきたい。そのために、できごとの背景となったものや、中国の影響などをまとめながら、この時代の日本をもう一度振り返る時間をとってきたい。
中世の日本	○本校の正答率は、市平均より4.2%、県平均より5.8%高い。	正答率が市や県より高いとはいえ、50%に満たないことから、中世の日本の流れやポイントをおさえて年表にまとめるなど、基本的な内容についてしっかり復習をする必要がある。また、問題練習をすることで、知識をもとに考える力も伸ばしていきたい。

宇都宮市立古里中学校第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	77.9	74.1	73.8
	図形	68.1	62.0	60.9
	関数	52.7	54.1	52.9
	資料の活用	67.5	62.5	63.4
観点	数学的な見方や考え方	52.5	48.2	48.3
	数学的な技能	73.6	71.0	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	66.1	62.9	62.3



★指導の工夫と改善

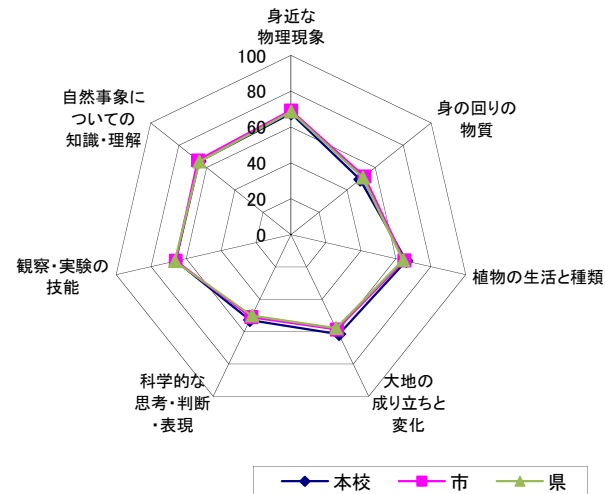
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○本校の正答率は、市平均より3.8%、県平均より4.1%高い。	学校の取り組みとして学びあい活動を行っている成果と考えられる。さらに学びあい活動を充実させ、数学的思考力を高めたい。また、自分の考えや式、計算を書くことの習慣をつけさせたい。さらに、今後も毎時間の計算練習を継続して行い、さらに定着を図っていきたい。
図形	○本校の正答率は、市平均より6.1%、県平均より7.2%高い。特に、問題別に見てみると、空間図形で、文字式を使って事象を数学的に考える問題は、県の平を約10%上回っている。	平面図形については興味関心が高く、意欲的に取り組んだ結果と考えられる。2年次の図形分野でも意欲的に取り組めるよう課題を精選し、取り組ませたい。また、空間図形についても空間認識能力は全般的に高いと考えられる。体積・表面積の計算については、毎時間の計算練習の中に組み込んで、練習をする必要がある。
関数	●本校の正答率は、市平均より1.4%、県平均より0.2%低い。	関数は生徒の多くが苦手意識を持つ領域であるが、非常に重要な領域である。2年次で扱う1次関数において、比例反比例の復習を行いつつ、基礎事項を徹底させていきたい。さらに発展課題にも積極的に取り組ませたい。
資料の活用	○本校の正答率は、市平均より5.0%、県平均より4.1%高い。特に、問題別に見てみると、資料の活用に関して、資料から判断する記述式の問題では、県平均より約20%高い。	記述問題について、65%の生徒が正解していることは大変素晴らしい結果である。今後も数学的に思考し、表現する力をさらに高めたい。ただし、代表値についての知識・理解が不足しているところが見られるので、計算練習に組み込んで指導していきたい。

宇都宮市立古里中学校第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	67.7	69.2	68.6
	身の回りの物質	49.3	52.2	51.1
	植物の生活と種類	65.9	64.8	64.1
	大地の成り立ちと変化	61.6	58.7	57.8
観点	科学的な思考・判断・表現	52.9	51.1	50.1
	観察・実験の技能	66.0	66.0	66.5
	自然事象についての知識・理解	65.6	66.5	65.4



★指導の工夫と改善

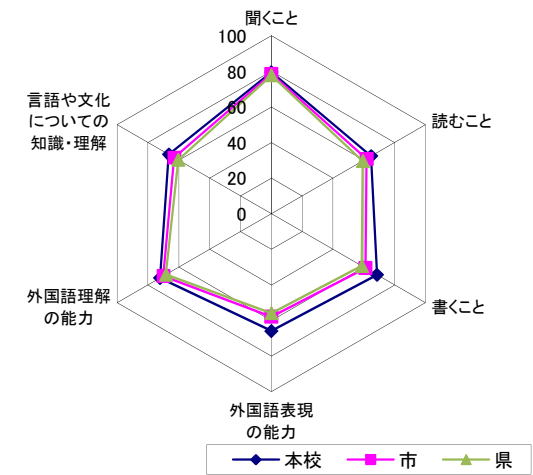
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	●本校の正答率は、市平均より1.5%、県平均より0.9%低い。特に、浮力の大きさを求める問題の正答率は23.6%と最も低い。	凸レンズの実像のようすについては、上下左右どちらも逆向きになることや逆向きになることで実際どのような図になるかイメージできないのではないかと考えられるため、イメージを表現することを授業で取り入れていきたい。また、説明文・図・グラフすべてを読み取る問題は、多くの生徒が苦手としている。実験の意味や実験から得られたデータからグラフを活用することができるように指導していきたい。
身の回りの物質	●本校の正答率は、市平均より2.9%、県平均より1.8%低い。特に、状態変化に関する問題の本校の正答率は45.5%で、県平均の53.9%に比べ8.4%低い。 ○物質のすがた、水溶液に関する問題の本校の正答率は、県平均を上回っている。	化学変化と原子・分子の単元でも、物質を粒子モデル化することは、必須となるが、定着度は低い。また、溶解度は飽和水蒸気量と類似している点が多いが、グラフの読み取りや解けるということを理解していない生徒が多いということ念頭に置いて、単元ごとに随時復習を行い、関連させながら、指導していきたい。
植物の生活と種類	○本校の正答率は、市平均より1.1%、県平均より1.8%高い。	顕微鏡の使い方については定期的に振り返るようにする。また、実験を行う際には、その理由を必ず押さえるようにしたい。分類の基準の問題では、図の読み取りを苦手としていていると考えられるため、自分の言葉で説明できるような時間をとってきたい。
大地の成り立ちと変化	○本校の正答率は、市平均より2.9%、県平均より3.8%高い。特に、安山岩ができたようすを記述で答える問題では、75.6%と県の正答率を大きく上回っている。	火山と地震の問題では、ただ単純に用語を記憶をすることは難しいため、実物や映像を用いながら、知識の定着を図ってきたい。地層の重なりと過去のようすの内容の定着度は低く、苦手意識をもつ生徒が多い。小テストの回数を増やしたり、練習問題の時間を確保するなど、知識の定着を図ってきたい。

宇都宮市立古里中学校第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	79.6	78.7	77.8
	読むこと	64.7	61.7	59.2
	書くこと	68.5	61.0	58.7
観点	外国語表現の能力	65.9	57.9	55.8
	外国語理解の能力	72.3	70.1	68.4
	言語や文化についての知識・理解	66.6	63.0	60.4



★指導の工夫と改善 ○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○本校の正答率は、市平均より0.9%、県平均より1.8%高い。	授業の導入の際に、T.TIによるモデル対話を聞かせたり、オーラルインタラクションを引き続き積極的に取り入れていくことにより、対話文に慣れさせる。また、話の概要や要点を聞き取れるようにするためには、ポイントになる情報に注目した聞き方を身につけることが大切である。そのために、ポイントになる情報をメモしながら聞く練習を継続していきたい。
読むこと	○本校の正答率は、市平均より3.0%、県平均より5.5%高い。	段落ごとや文章全体で何を言っているのかを簡単にまとめさせる練習を継続し、概要や要点をつかむための読み方の指導に力を入れる。また、英文内容に関するQ&A(英語・日本語の質問に答える)や文章中に出てくる指示語が具体的に何を指しているかを常に考えさせるようにすることで、必要な情報を文章中から探し出す力を身につけさせたい。
書くこと	○本校の正答率は、市平均より7.5%、県平均より9.8%高い。特に、テーマに基づく英作文では、本校の正答率は79.1%で、県平均65.9%を大きく上回っている。	英作文の基礎になる語彙力・基本文型の定着のために、単語テストや文型テストをまめに実施していく。また、条件作文の力を伸ばすために、与えられた場面や対話の流れの中でどんなことを言えばよいかを考える練習や、条件に合わせてどの文型を使えばよいかを考える練習を繰り返し、英文の運用能力を伸ばしていく。さらに、テーマに合う英文の表現力を身につけさせるために、テーマごとに必要な関連語句を豊富に紹介していく工夫をする。

宇都宮市立古里中学校第2学年生徒質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が

●「友だちの前で自分の考えや意見を発表するのが得意とは言えない」と答えた生徒が65%もあり、宇都宮市の平均より7.7%、栃木県の平均より6.2%多い。

●「近所の人に会ったときはあいさつをしているか」という設問で、「どちらかといえばいいえ」、「いいえ」、生徒は13.5%で、宇都宮市の平均より3.4%、栃木県の平均より3.8%多い。

○学習については、「家で宿題の他に自分で考えた勉強をしている」生徒は64.3%、「授業でわからなると先生に聞くことができる」生徒は78.9%おり、どちらも宇都宮市・栃木県の平均を10%近く上回っている。

○携帯電話・スマートフォンの所持については、「所持している」と答えた生徒は39%で、宇都宮市の53.3%、栃木県の43.3%に比べ、所持率が低い。

○家庭生活では、「家の人あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」と答えた生徒は80.5%で、宇都宮市の平均より10%以上多い。また、「家でのきまりや約束を守っている、家の人と学習について話す」生徒も、栃木県の平均より7%以上多い。

『見られるもの
都宮市の平

と答えた生

いことがあ
ている。

3. 5%、析

、宇都宮市
話をしてい